

# 11/24 開催 交通アクセス報告 テーマ「車いすの視線から気づこう」

今年の埼玉障害者市民ネットワーク主催による交通アクセスは秋晴れの晴天に恵まれ、約100人の参加者が集まり浦和駅、大宮駅周辺のバリアフリーチェックをしました。

浦和駅パルコ前に11時集合し4つのコースに分かれ、センター21は浦和駅前県庁通り、電車で大宮駅へ移動、バスに乗り大宮警察署前で下車、ふれあい福祉センターで報告会。このコースの車いす視線からのチェックを行いました。

「浦和駅前県庁通りからふれあい福祉センターのコースを回りました。浦和駅西口から県庁まで飲食店などたくさんありましたが、歩道は段差と穴だらけの状態、そして店の出入り口には段差解消の板が敷いてありますが、人1人擦れ違いができる程度なので店の出入りがとても不便になります。夕方や夜間はトラブルや事故の危険度が増す。(右写真から車いすは目線が低いことを意識してほしい。)



この坂道途中にバス停があるのですが、急なスロープになっている斜面があり(右上写真)路線バスがここに停車して低床バスに乗り込めるようになっていきます。運転手が後押しをしますが、この角度はかなり危ないと感じました。大変ではあるが駅に一旦戻り乗車したほうが安全とも思いました。

電車で移動するときにも、駅ホームから乗車の時は車内に車いすスペースが必要なのですが、そのすきまをあけてくれない乗客が多いので、こちらが躊躇してしまいます。駅員からは「次の電車にしていただけませんか?」と言われました。一緒に回った健常者に急かされ、勢いで乗りましたが、その数秒間の出来事があって車いすスペースが確保できました。」



## (報告:上福岡障害者支援センター21 新相 勝己) 報告会で出された感想・意見

さいたま市議会議員・傳田ひろみさん:「1996年に大宮駅のバリアフリーチェックを行い17年が経ちました。

地域で生活する制度は出て来ましたが、今日このふれあい福祉センター到着までの間に電車、バスに乗り、歩道を通ってきました。しかし状況は昔とあまり変わっていない印象を受けました。やはり最近の駅構内や歩道の通行

は歩きスマホ、歩き携帯の人たちが多くすごく寒々しい光景があり、寂しさも感じました。手動車いすだと通行人4人の手伝いで乗車出来ました。しかし電動が多くなった現在は「駅員の指示で利用する」とマニュアル化されているらしく、今回も浦和駅でもめたのですが、車いす3~4台で乗車の場合は下車駅までの連絡が伝わっていないと「次の電車にしてください」と言われる。駅員がスロープを準備し指定されたドアから乗車と下車するなど全て駅員の

指示に 従わないと利用できない、という対応だった。これで本当に利用者のことを考えているのか？ 束縛されているのは17年経過しても昔と変わっていない、なんか対応が違う。モヤモヤとした気持ちが残りました。」

青い芝の会・金子和弘：埼玉の交通アクセスには何回か参加していますが、ここ数年で新しい法律が新設され、ある意味世の中も変わりつつあります。法律の中身はまだまだ未熟な部分もありますが、先ほど傳田さんが言われたように「共に生きる」、このことをしっかりと考えながらやっていかないと本当の交通アクセスの意味がないと思います。

もっと言うならば社会を変えていく気持ちや運動をしていかないと、1つ1つの課題が生きていかない、人と人との繋がりを我々自身が考えていかなければいけないと思います。

わらじの会・吉田弘一：鉄道事業者とお互い顔が見える形でじっくりと話し合い、意見や日頃の思いを出し合える機会があることが必要。

わらじの会・内藤純：いろんな境遇・立場の人が街中で出会い交流していくことが大切。障害者が地域で暮らすには何が必要か、交通機関に限らず、行政も含め多くの人々に考えてほしい。

センター21・下重美奈子：東武鉄道の方と一緒に行動しました。車いすにのっていただきたく用意したのですが、「会社のほうで操作や介助の練習をやっている」「今日は案内だけで大丈夫です」と言われ、残念な気持ちになりました。志木から浦和駅に行く国際興業バスに乗ろうとしましたが、車いすは1台しか乗れず2台乗れなかったのが不便だと感じました。

昼食時に牛井の松屋で食事をしたかったのですが、階段が3段もあり中に入れませんでした。私はここで食事をしたかったです。

センター21・小田真：バスの運転手の負担が多い（スロープ出し、運賃計算、他の客の対応）

センター21・金子敏満：西武鉄道、東武鉄道、JRの担当者が報告会に出席。しかし「安全を第一に設備の充実を目指していく」など、決まりきった発言しかなされず残念。

・車椅子目線だと、歩行者が横切ったり急に飛び出してきた時とっさに対応できず恐怖を感じる。スマホをみながら歩く人も怖い。高いところの駅の案内表示も見えにくい。

（右下の記事：2013・11・25 埼玉新聞に掲載されました。）

センター21 有山博：県庁通りは電柱が地中化されていて歩道も広く歩きやすい。

放置自転車もない。

駅案内表示にルビがなく知的障害者に不親切だ。



**歩きスマホ怖い、**  
**車いすでバリア点検**  
さいたま

障害者が街移動を妨げる街中のバリアを核とする「2013年交通アクセス埼玉」が24日、さいたま市のJR浦和、大宮駅周辺を中心に開催された。埼玉県市民センターが1年ごとの年次報告として、毎月実施している「歩きスマホ」参加と障害者や家族は交通バリアの改善を求めるとも「スマートフォンや携帯電話の画面見ながら歩行する歩きスマホが新たなバリアになって、大変態を報告した。（浜田裕一）

県内の福祉団体や身体知的、視覚障害者（足掻者、鉄道関係者）を加え、約100人が参加。今年テーマは「車いすの福祉」。複数街の中を点検した。浦和駅、大宮駅、大宮公園周辺を歩き、利用者と共に行動し、街中のバリアを点検した。

県の調べで、県内4駅のうち大宮駅と浦和駅で設置済みのエレベーターやスロープ設備は昨年11月時点で100駅、81.2%。街歩き後の報告では、交通バリアの可視化は進んでいると報告が出た。20年度の表示の取組の仮を付けてほしい。①車いすのキヤンペー

②により移動しやすい歩道。駅で一般市民が道のり。③、細か配障害者補助する機会が減る。④、互いの助け合関係が社。⑤の自己負担を減らす。⑥、会が互いに助け合。⑦、歩道が広く、車いす目線。⑧、歩道が広く、車いす目線。⑨、歩道が広く、車いす目線。⑩、歩道が広く、車いす目線。

また「バリアフリー化を進める。⑪、歩道が広く、車いす目線。⑫、歩道が広く、車いす目線。⑬、歩道が広く、車いす目線。⑭、歩道が広く、車いす目線。⑮、歩道が広く、車いす目線。⑯、歩道が広く、車いす目線。⑰、歩道が広く、車いす目線。⑱、歩道が広く、車いす目線。⑲、歩道が広く、車いす目線。⑳、歩道が広く、車いす目線。

「歩道が広く、車いす目線。⑩、歩道が広く、車いす目線。⑪、歩道が広く、車いす目線。⑫、歩道が広く、車いす目線。⑬、歩道が広く、車いす目線。⑭、歩道が広く、車いす目線。⑮、歩道が広く、車いす目線。⑯、歩道が広く、車いす目線。⑰、歩道が広く、車いす目線。⑱、歩道が広く、車いす目線。⑲、歩道が広く、車いす目線。⑳、歩道が広く、車いす目線。」